

-令和5年度全国学力・学習状況調査概要説明-

1 調査について

実施日 令和5年4月18日(火)

実施教科 小学6年 国語 算数
 中学3年 国語 数学 英語
 共通 児童生徒質問紙調査

◆今年度の調査の特徴

- ・中学校で4年ぶり2度目となる英語の教科調査を実施。(「話すこと」調査については、1人1台端末等を用いたオンライン方式により実施。)
- ・児童生徒質問紙は約80万人を対象として、オンライン方式により実施。

2 調査結果概要

小学校 国語

| 分類 | 区分 | 柏市 | |
|-----------|---------------|--------------------|---|
| 全体 | | ≒ | |
| 学習指導要領の内容 | 知識及び技能 | (1) 言葉の特徴や使いに関する事項 | ≒ |
| | | (2) 情報の扱いに関する事項 | ≒ |
| | | (3) 我が国の言語文化に関する事項 | ≒ |
| | 思考力、判断力、表現力等 | A 話すこと・聞くこと | ≒ |
| | | B 書くこと | ≒ |
| | | C 読むこと | ≒ |
| 評価の観点 | 知識・技能 | ≒ | |
| | 思考・判断・表現 | ≒ | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | ≒ | |
| 問題形式 | 選択式 | ≒ | |
| | 短答式 | ≒ | |
| | 記述式 | ≒ | |

小学校 算数

| 分類 | 区分 | 柏市 |
|-----------|---------------|----|
| 全体 | | ≒ |
| 学習指導要領の領域 | A 数と計算 | ≒ |
| | B 図形 | ≒ |
| | C 測定 | ≒ |
| | D データの活用 | ≒ |
| 評価の観点 | 知識・技能 | ≒ |
| | 思考・判断・表現 | ≒ |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | ≒ |
| 問題形式 | 選択式 | ○ |
| | 短答式 | ≒ |
| | 記述式 | ≒ |

評価基準

| | |
|---------|---------------|
| ◎ 上回る | 4.0以上 |
| ○ やや上回る | 2.1 ~ 3.9 |
| ≒ ほぼ同等 | - 2 ~ 2 |
| ▽ やや下回る | - 3.9 ~ - 2.1 |
| ▼ 下回る | - 4.0以下 |

※評価判定について
 柏市平均正答率と全国平均正答率の差を評価基準表に照らし合わせて決定している。

中学校 国語

| 分類 | 区分 | 柏市 | |
|-----------|---------------|--------------------|---|
| 全体 | | ≒ | |
| 学習指導要領の内容 | 知識及び技能 | (1) 言葉の特徴や使いに関する事項 | ≒ |
| | | (2) 情報の扱いに関する事項 | ≒ |
| | | (3) 我が国の言語文化に関する事項 | ≒ |
| | 思考力、判断力、表現力等 | A 話すこと・聞くこと | ≒ |
| | | B 書くこと | ≒ |
| | | C 読むこと | ≒ |
| 評価の観点 | 知識・技能 | ≒ | |
| | 思考・判断・表現 | ≒ | |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | ≒ | |
| 問題形式 | 選択式 | ≒ | |
| | 短答式 | ≒ | |
| | 記述式 | ≒ | |

中学校 算数

| 分類 | 区分 | 柏市 |
|-----------|---------------|----|
| 全体 | | ≒ |
| 学習指導要領の領域 | A 数と式 | ≒ |
| | B 図形 | ≒ |
| | C 関数 | ≒ |
| | D データの活用 | ≒ |
| 評価の観点 | 知識・技能 | ≒ |
| | 思考・判断・表現 | ≒ |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | ≒ |
| 問題形式 | 選択式 | ≒ |
| | 短答式 | ≒ |
| | 記述式 | ≒ |

中学校 英語

| 分類 | 区分 | 柏市 |
|-----------|-----------------|----|
| 全体 | | ≒ |
| 学習指導要領の領域 | (1) 聞くこと | ≒ |
| | (2) 読むこと | ≒ |
| | (3) 話すこと [やり取り] | ≒ |
| | (4) 話すこと [発表] | ≒ |
| | (5) 書くこと | ≒ |
| 評価の観点 | 知識・技能 | ≒ |
| | 思考・判断・表現 | ≒ |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | ≒ |
| 問題形式 | 選択式 | ≒ |
| | 短答式 | ≒ |
| | 記述式 | ≒ |

小学校 (◇成果 ◆課題)

国語

- ◇目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することはよくできている。
 ◆図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

算数

- ◇表を読み取り、表の中の知りたい数を求めることはできている。
 ◆図形を構成する要素などに着目して、図形の性質について考察することに課題がある。

中学校

国語

- ◇聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることはできている。
 目的や場面に応じて質問する内容を検討することはできている。
 ◆文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることに課題がある。

数学

- ◇基礎的・基本的な計算技能は身につけている。
 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができている。
 ◆ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題がある。

英語

- ◇日常的な話題について、短い情報を正確に聞き取ったり、事実と考えを区別して読んだりすることはできている。
 ◆日常的な話題に関する文章の概要を捉えたり、社会的な話題について自分の考えや理由を表現したりすることに課題がある。

3 課題がみえた問題と、指導改善の方略

小学校国語 大問1(二)

柏市正答率 24.7%

全国正答率 26.7%

【川村さんの文章】の に、下の条件に合わせて、学校の米作りの問題点とその解決方法について書く。

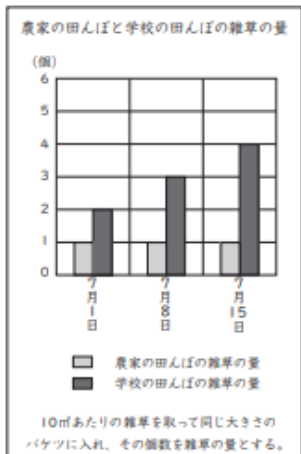
【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしょうかくすることができました。しょうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下じゅんに学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、ア いがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼと イくらべてみました。ウ きかんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。



〈条件〉

- ・問題点については【川村さんの文章】のグラフと【カード④】のそれぞれから分かることを書く。
 - ・問題の解決方法は【カード⑤】をもとに書く。
 - ・60字以上100字以内で書く。
- ※【カード④】【カード⑤】は紙面の都合上省略

〈誤答例の分析と課題〉

【川村さんの文章】のグラフから分かることを書いていない 19.5%
【カード④】から分かることを書いていない 18.2%

いずれかの情報しか取り上げていないために誤答となってしまった児童は、あわせて37.7%になる。条件に必要な情報を集めたり、グラフを含めた複数の情報を用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることに課題がある。

〈指導改善の方略〉

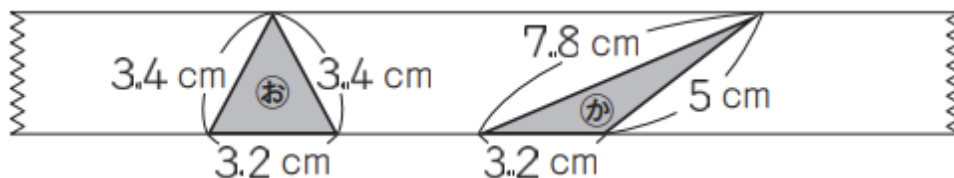
児童が日常生活において考えをまとめる際に、単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較したり、関連付けたりして検討するように指導することが大切である。

小学校算数 (大問2(4))

柏市正答率 18.6%

全国正答率 20.8%

テープを直線で切ってつくった2つの三角形の面積の大小を判断し、その理由を説明する。



- 1 ①の面積のほうが大きい。
- 2 ②の面積のほうが大きい。
- 3 ①と②の面積は等しい。
- 4 ①と②の面積はこのままでは比べることができない。

〈誤答例の分析と課題〉

【番号】④

【理由】④と解答した児童は、2つの三角形の高さが同じであるということに気付くことができているか、具体的な数値が示されていないので比べることができないと判断している。

〈指導改善の方略〉

具体的な数値が示されていない場面で、問題解決に必要な情報を見いだしたり、適当な数値を当てはめたりして考えられるように指導することが重要である。

現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く。

【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】は、古典の作品である「竹取物語」に、作家の星新一が工夫を加えて現代語で書いたものです。どこがどのように工夫されていると考えられますか。【授業で読んだ「竹取物語」の一部】や【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】の表現を取り上げて、あなたの考えを書きなさい。

〈条件〉

次の条件を満たして解答している。

- ①【授業で読んだ「竹取物語」の一部】や【学校図書館で見付けた「竹取物語」の一部】の表現を取り上げている。
- ② ①について、どのように工夫されていると考えられるかを書いている。

〈誤答例の分析と課題〉

- ・条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの 6.9%
- ・条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの 16.8%
- ・上記以外の解答 4.6%
- ・無回答 21.7%

文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることに課題がある。また、無回答の高さも課題である。

〈指導改善の方略〉

読書活動やインタビュー、記録、発表、討論といった言語活動の充実を図ることの他に、漠然と記述する学習を設定するのではなく、目的や課題に応じて自分の考えを記述する授業改善が求められる。

「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張できる理由を、2つの箱ひげ図の箱に着目して説明する。

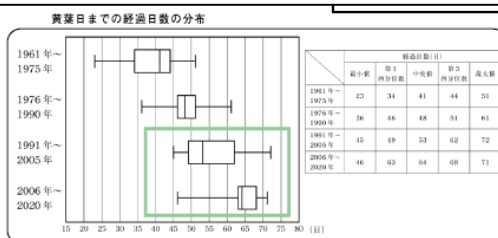
イチヨウの木は大部分の葉が黄色に変わった最初の日を黄葉日と言います。一花さんと啓太さんは、黄葉日が以前と比べるとだんだん遅くなってきている傾向にあることをニュースで知り、二人が住む地域も同じ傾向にあるのが気になりました。そこで、二人が住む地域の黄葉日を調べたところ、1961年から2020年までの60年分の記録がありました。

二人は、黄葉日の傾向を調べるために、各年の黄葉日を9月30日からの経過日数で表すことにしました。このとき、経過日数は10月1日が1日となり、10月31日は31日、11月1日は32日となります。そして、二人は次のような表にまとめた。

| 年 | 黄葉日 | 経過日数(日) |
|------|--------|---------|
| 1961 | 10月23日 | 23 |
| 1962 | 11月10日 | 41 |
| 1963 | 11月10日 | 41 |
| 1964 | 11月13日 | 44 |
| 1965 | 11月12日 | 43 |
| ... | ... | ... |
| 2019 | 12月10日 | 71 |
| 2020 | 12月4日 | 65 |

二人は、上の表を見て、経過日数が年によって大きくなっていくようになったりしていることに気づきました。そこで、60年分の経過日数を何年かごとのまとまりで分けて箱ひげ図で表し、それぞれの分布の傾向を比較することにした。

次のページの黄葉日までの経過日数の分布は、15年ごとのまとまりとして1961年～1975年、1976年～1990年、1991年～2005年、2006年～2020年の4つに分けてまとめたものです。



次の(1)、(2)の各問に答えなさい。
(2) 二人は、前ページの箱ひげ図を見て、話し合っています。

一花さん「4つの箱ひげ図を見ると、黄葉日はだんだん遅くなっていく傾向がありそうですね。」
啓太さん「でも、1991年～2005年と2006年～2020年の箱ひげ図は、右端と左端が同じくらいの位置にあるよ。遅くなっているといえるのかな。」
一花さん「確かに箱ひげ図の右端と左端についてはそうだけど、箱に着目すれば、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあるといえるのではないかな。」

前ページの箱ひげ図を見ると、一花さんのように「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、1991年～2005年と2006年～2020年の2つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。

〈正答例〉

1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも、2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にある。したがって、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。

〈誤答例の分析と課題〉

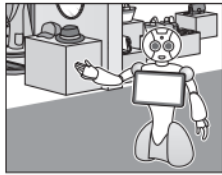
箱ひげ図の箱に着目せず、最小値に着目して黄葉日が遅いことを説明しようとしていたと考えられる。あるいは、箱に着目することで、箱の位置や四分位数の違いに気づき、そのことが黄葉日が遅くなっている根拠になると捉えることができなかつたとも考えられる。また、26.4%の無回答生徒は、そもそも箱ひげ図の仕組みを理解していない。

〈指導改善の方略〉

データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を箱ひげ図の箱の位置や四分位数などを用いて的確に説明できるようにすることが大切である。

ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えと理由を英語で書く。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?



【正答の条件】

- ① 書き手の意見に対する自分の考えを書いている。
- ② ①の理由を書いている。

〈正答例〉

• I agree with you. If robots do our housework, we will have more time.

〈誤答例〉

• Yes, I do. I think robots is very nice.

〈誤答例の分析と課題〉

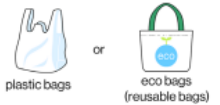
自分の意見を書く際に、なぜそのように考えたのかという理由を、英文の書き手の意見を踏まえて書くことに課題があると考えられる。また、無回答の31.9%は、どのようなことを書けば理由になるのか理解できていない、あるいは、理由を書くために必要な表現が身につけていない。

〈指導改善の方略〉

読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否を話したり書いたりする言語活動を行うことが大切である。

環境問題についての英語のプレゼンテーションを聞き、話し手の意見に対する自分の考えとその理由を話す。

Do you buy plastic bags at the store?



Do you buy plastic bags at the store? Or, do you use eco bags?

【正答の条件】

- ① 話し手の意見に対する自分の考えを話している。
- ② ①の理由を話している。

〈正答例〉

• I like your idea. Many people in Japan use plastic bags. We must change our action to protect environment like people in New Zealand.

〈誤答例〉

• I'm surprised.

• We are buy eco bags.

〈誤答例の分析と課題〉

プレゼンテーションへの感想のみを話している。話し手の意見を踏まえた上で、自分の考えやその理由を聞き手に話すことに課題がある。



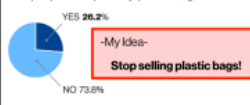
Look at this picture. There are many plastic bags in the sea. It is a serious problem today.

Do people in Japan buy plastic bags at stores?



Now, look at this. I was really surprised to see this because over 25 % of people in Japan buy plastic bags at stores. In New Zealand, stores do not sell plastic bags and we take eco bags.

Do people in Japan buy plastic bags at stores?



Some people may say plastic bags are becoming more eco-friendly, but I recommend stores in Japan should stop selling plastic bags. What do you think?

〈指導改善の方略〉

スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を継続的・計画的に取り入れることが重要である。

4 質問紙調査結果の概要

対象：柏市立小学校6年生，柏市立中学校3年生

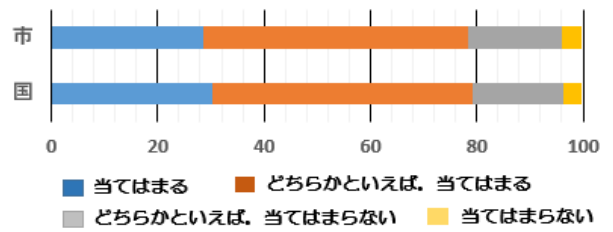
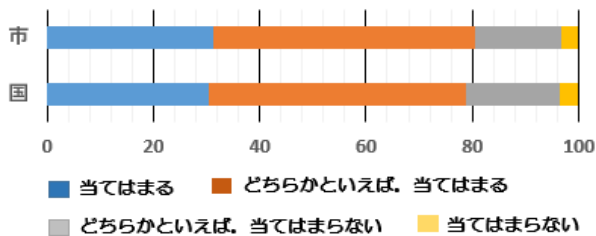
◆主体的・対話的で深い学びの視点による学習への取組状況等

学びに向かう姿勢について，8割前後の児童生徒が肯定的な回答でした。国と比較しても同等か，それ以上で，良好な状況です。各学校においても引き続き，個別最適な学び・協働的な学びに関する研修を実施し，主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくりに努めています。

5年生（中学校1，2年生）までに受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいましたか。 【児童生徒質問紙】

【小学校】

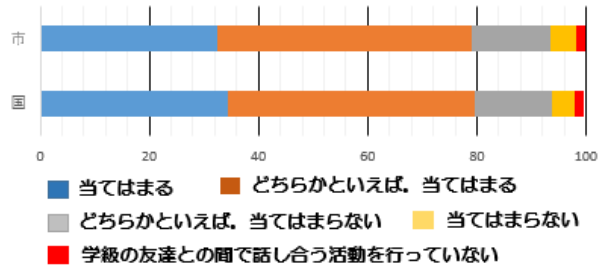
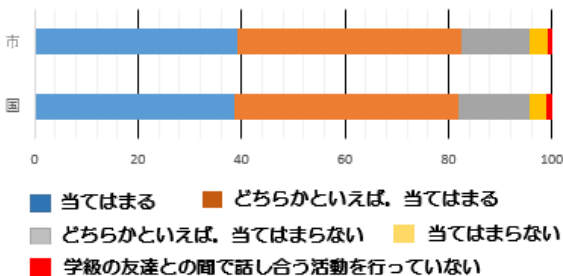
【中学校】



学校の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができますか。 【児童生徒質問紙】

【小学校】

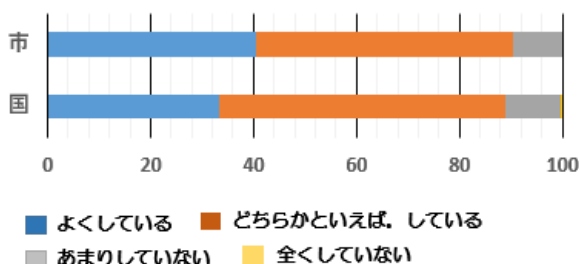
【中学校】



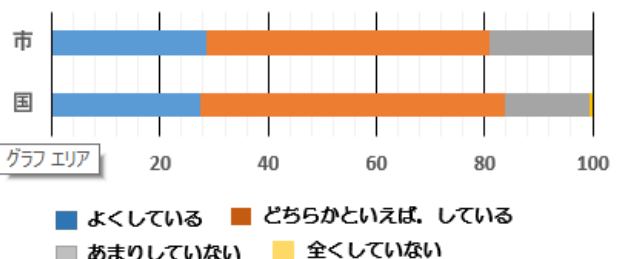
児童（生徒）自らが学級やグループで課題を設定し，その解決に向けて話し合い，まとめ，表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか。 【学校質問紙】

【小学校】

【中学校】



グラフエリア



◆家庭学習への取組状況等

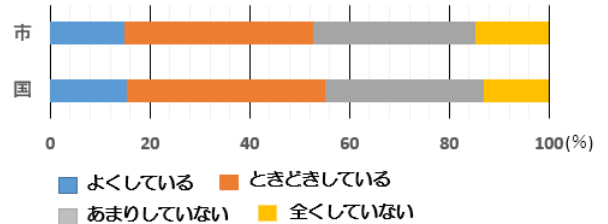
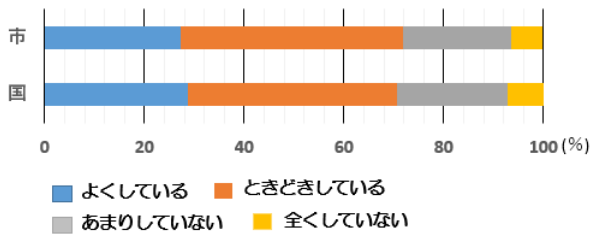
柏市の児童生徒の自分で計画を立てて勉強している割合は、国と比較してほぼ同程度です。また、2時間以上家庭学習をしている割合は小学校・中学校ともに国と比べて多くなっています。

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。（学校の授業の予習や復習を含む）

【児童生徒質問紙】

【小学校】

【中学校】

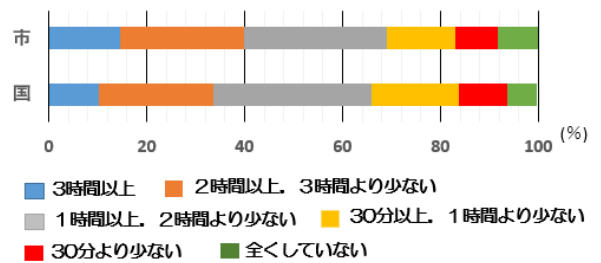
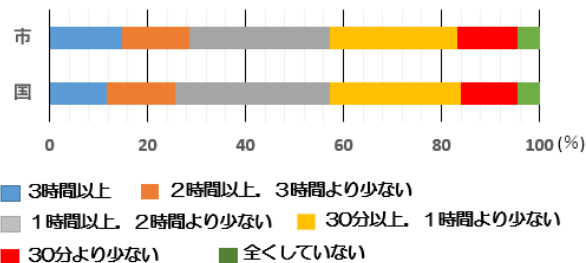


学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

【児童生徒質問紙】

【小学校】

【中学校】



◆自己有用感等

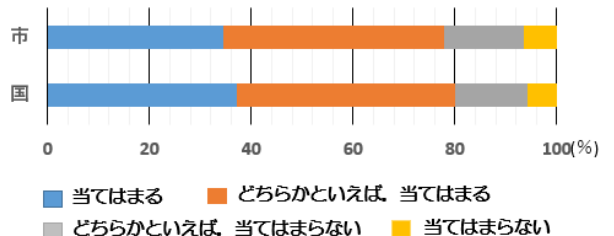
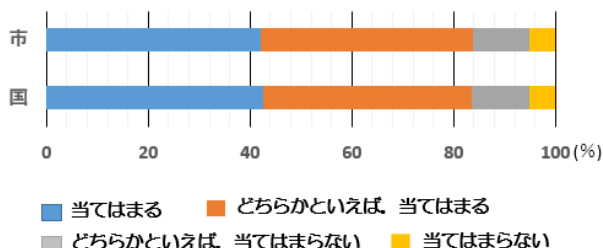
全国値とほぼ同等の結果です。児童生徒が自分自身に自信を持ち続け、将来の夢に向かって生き生きと学校生活を送れるよう、自己有用感を高める取組に努めています。

自分には、よいところがあると思いますか。

【児童生徒質問紙】

【小学校】

【中学校】

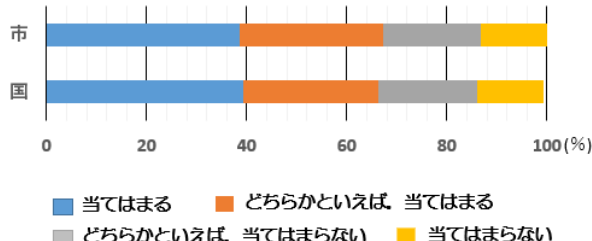
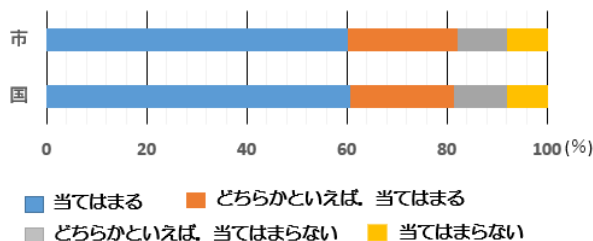


将来の夢や目標を持っていますか。

【児童生徒質問紙】

【小学校】

【中学校】



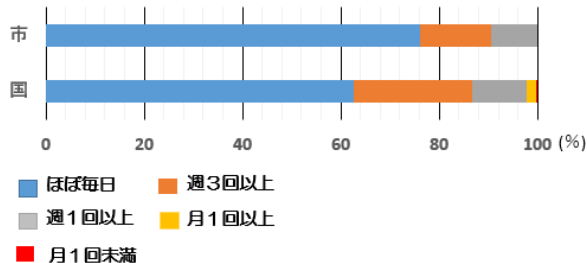
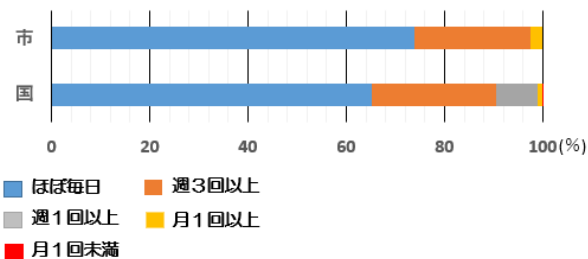
◆ICTを活用した学習状況

ICT機器の活用が進んでいます。全国と比較しても、柏市の児童生徒は、ほぼ毎日授業でICT機器を活用している状況にあります。ICT機器の利点を活かし、わかりやすい授業実践を行い、学習への意欲向上につなげています。

調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。 【学校質問紙】

【小学校】

【中学校】

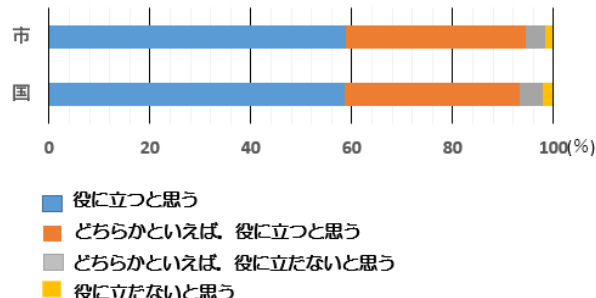
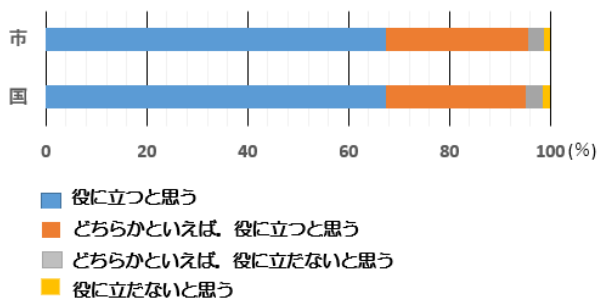


学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

【児童生徒質問紙】

【小学校】

【中学校】



◆家庭や地域との連携

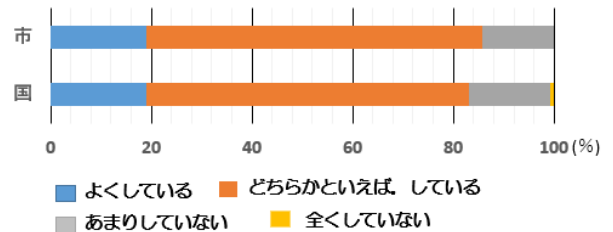
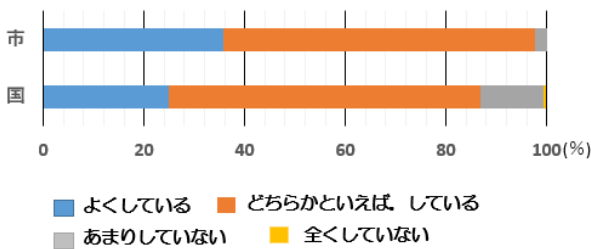
国と比較して、柏市の家庭や地域との共有を図る取組の割合は高い状況です。柏市のコミュニティスクールは令和5年度で全校に設置完了となります。学校・家庭・地域がそれぞれの役割を考え、子どもたちを育てるための協働活動を展開する「地域とともにある学校づくり」を推進していきます。

教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組をしていますか。

【学校質問紙】

【小学校】

【中学校】

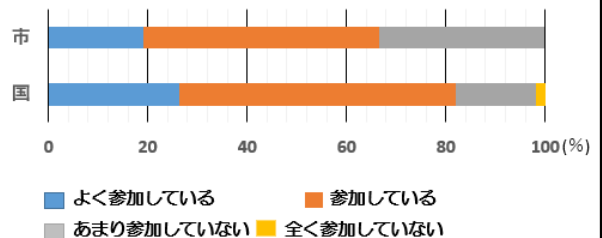
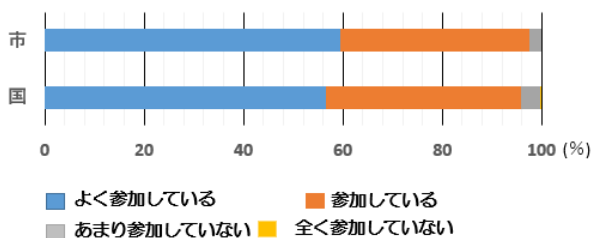


保護者や地域の人々が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか。

【学校質問紙】

【小学校】

【中学校】



※ 全国学力・学習状況調査の分析結果について

本調査は必ずしも過去の学習内容全体を網羅するものではなく、把握できるのは、あくまでも個々の学力の特定の一部分であることを申し添えます。